

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義「協同組合論」



<第6回>

「医療・福祉と協同組合」

大田 卓／みえ医療福祉生活協同組合 検診センター主任

第6回（11月15日）：受講56名（対面11名、リモート45名）

庶民にとって医療が縁遠かった1950年代、協同の福祉のために医療を運営する協同組合が生まれた。

健康とは肉体的にも、精神的にも、社会的にも、全てが満たされた状態にあることであり、医療や介護だけでは人やまちを健康で豊かにすることはできない。組合員や地域住民の参加を通して社会とのつながりをつくり、みんなで手を取り合い、力を合わせて、健康で豊かな暮らし、地域社会をつくっていききたい。

コロナ禍の影響で活動の自粛が長期化している。組合員の顔が見えず、地域の暮らしやニーズが掴みにくくなっている。暮らしかたや働き方等はコロナ禍以前のように戻らないであろう。ならば、自分たちが変わり、これからのつながり方を模索していかなければならない。

【第6回／講義の要旨】

- ・1950年代は、国民皆保険が実施される前であり、診療所が自由に料金を設定できる時代であった。貧しい人々にとって医療は縁遠いものであった。
- ・1953年9月の台風で、津市の中心部全域が浸水し全国から被災地域での救護活動が展開された。同年10月には津市柳山で民家を借りての応急診療が開始され、その後、柳山診療所、津医療生協へとつながっていったのである。生協の基本運営は、組合員の出資・利用・参加であるが、医療福祉生協は組合員以外の利用も認められている。
- ・県内5つの医療生協が合併し2011年に、みえ医療福祉生協が設立された。「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」を理念に地域まるごと健康づくり、地域住民と医療・福祉専門家の協同、多くの人々の参加で地域に協同の“わ”を広げている。
- ・人間の健康は、生活する社会や環境に大きく左右される。様々な主体と手を取り合いながら、個人では何ともしがたい社会的要因にまでアプローチし、組合員や地域住民の「毎日の健康な暮らし」を実現することが協同組合としての使命である。
- ・どうすれば、すべての人が幸せな社会を創れるか。人はみんな幸せになるために生きている。健康でいることは生きる目的ではない。大切なのは社会とのつながりである。
- ・組合員参加による民主的な運営、無差別・平等の医療、無料低額診療をおこなっている。無料低額診療を行う医療機関は県内に4か所しかなく、その内の2か所は当生協である。組合員活動は、「班会」や「たまり場」「いきいきくらしの会」「送迎ボランティア」等、組合員が主体となった健康づくりや、つながりあう機会等が取り組まれている。コロナ禍においても活動の機会や時間は増えている。
- ・コロナ禍において職員は、感染への大きな不安を抱きながら日々の業務にあたっている。無料低額診療の相談も増加し困難を抱えた人々の存在が改めて浮き彫りになった。

第6回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・地域医療の在り方について改めて考えさせられた。一番印象に残ったのは、高齢者を中心とした地域医療は、ただ単に病気の治療のみを行うだけではなく、人それぞれの年齢、経済状態、考えや信条等々に合わせた治療や介護が重要であり、また地域包括した保健予防がいかに大切か、さらに予防するためには地域活動や勉強会など重要性を改めて認識した。またコロナ渦での経済弱者と医療の話は現実の厳しさ、難しさを考えさせられた上で、高度医療だけでなく、生協などで行われている生活支援も含めた地方医療取り組み、人とのつながりがいかに重要であるか非常によく理解できた。
- ・通常の医療施設では、体の問題に対して治療を施していますが、今回の医療福祉生協では、その枠に留まらず、心の健康、地域のコミュニティに対してもアプローチされているところがすごいと感じました。また、事業運営についても「ともに創る」という理念のもと主体的に活動されているので、よりコミュニティが心地よい場所になっていくのではないかと思います。
- ・今回の医療生協に関しては全くの無知だったので内容が理解できるか不安でした。しかし生協のスタンスとしては変わりなく、総じて地域の人々、組合員と共に事業を展開し暮らしをよりよくしていくというあり方だったのでスムーズに理解できました。また、医療という分野だからなのか地域生協や職域生協よりも組合員や地域の人々との距離が近いと感じました。元看護婦長の方の声の内容を見て、病院側から見るのと組合員側から見るのでは、見えている世界も気づきの幅も違うというのが非常に印象に残りました。かつては事業を提供する側だったのが支える側にまわり、その立場になった際に気付いたことを現在の生協へと声を届けられる距離の近さが、個人的に非常にいいと感じました。
- ・今まで医療生協についてあまりイメージが出来なかったけれど、地域に寄り添った様々な活動が行われていることを知ることができた。また、自分なんかがサポートを受けていいのかという気持ちは確かに抱きがちだったけれど、今日の話聞いて、全て1人で抱え込むのではなく、自分の心身に余裕がないときは誰かに頼って、逆に余裕が生まれたときには積極的にサポート側に回ることで、全体としてもより良い生活ができるのかもしれないと考えられるようになった。自分の知らないところで様々なことが行われていたことを知り、今後は積極的に日々行われている活動について調べ、実際に参加してみたいと思った。
- ・新型コロナウイルスを通して、医療の役割の重要性を感じつつあったが、それはあくまでも公衆衛生的なものに過ぎないと感じた。まとめの部分において触れられていたが、健康とはすべてが満たされた状態というものに大いに共感を覚えた。その点において、衛生的なものだけではない、包括的なケア、取り組みを実施する医療生協の役割はとても参考になるものであると感じた。
- ・消費だけではない、医療・福祉関係の協同組合を学ぶいい機会だった。協同組合が医療・福祉を手掛けることで、専門的なことだけではなく、病気を未然に防ぐ可能性を広げたり、地域のコミュニケーションをつくりだしたり、困っている人の最後の砦となるなど、活動の幅を広げることが出来ることを学んだ。
- ・今までの講義は地域に対するつながりや関わりを持ちながら活動を行っている生協について学んできたが、今回は医療と福祉に対する協同組合の在り方や歴史、課題を学び、社会問題を知り、できる限り支援して解決へと導くことが大切であると感じました。また、地域の医療と福祉に関して医師や看護師に任せるだけでなく、協同組合の事業も重要であり、地域に暮らす住民にとっては欠かすことのできない存在であると思いました。さらに、協同組合と地域が密に繋がって連携をとっていくことで地域をより活発にしていけることが出来ると思いました。

- ・肉体的にも精神的にも社会的にも満たされた状態というものは確かに医療だけでできるわけではなく、組合員の人を通して地域の人々自身が一緒になってつくっていく医療生協によって実現に近づいていることが具体的な組合員活動の話等を聞いて分かった。このことを踏まえて医療生協は暮らしをよりよくしていくうえで必要なものだと感じた。コロナの時代においてお互いの顔が見えにくくなった中で、つながりというものを模索していく必要性は今までも感じていたが、健康にかかわってくる医療生協の話でより強く感じた。
- ・体の健康だけでなく精神的、社会的に健康であるような取り組みが素敵だなと思いました。病気でない人もやってきて地域の方と交流ができるというのは、年配の方が孤独と思う機会を減らしますし、子どもが病院嫌いになることも少なくなる可能性があり、病気の早期発見にもつながるかもしれないと、メリットばかりだと感じました。近年薄れている人と人とのつながりを持てる場でそういう場所がもっと多くなってほしいと思いました。
- ・今回特に心に残っているのは、生協が医療と地域社会を結び付けて活動をしているということでした。今回の講義を受けるまで医療の分野にも協同組合が存在していることを知らず、今まで認識していた病院との違いが分からなかったのですが、人同士の深いつながりという点で別物だと感じたからです。また、健康の定義は肉体的にも精神的にも社会的にも満たされた状態であること、という意味も教えていただきましたが、この定義から考えると、医療福祉生協は人々を健康にするに当たって本質的に必要な活動をしていると感じました。私自身も病院をよく利用させていただくため、総合診療であることや、緊張せずにお医者様に話すことができる環境を設けていただけることはとてもありがたいです。このような地域の人々の居場所を守るためにも、大田さんが最後にお話しされていたように、未来がくるのをただ無責任に待つだけでなく、社会全員で考え、選んで地域の未来を作ってゆくことが大切だと感じました。
- ・医療ではどうしようもできないときに、相談できる場所を作るというアイデアはすごいなと感じました。社会的な要因も人間の健康に大きく関わっていることがわかりました。また医療を安く、総合的に提供するだけでなく、組合員のために、地域と繋がる活動をたくさん行なっていることがわかりました。そして、コロナ禍にもかかわらず、活動実績が増え増加していることに驚きました。コロナ禍であるからこそ、地域のつながりを強くしようという気持ちが伝わってきました。
- ・健康とは、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも満たされた状態であるというのはとても大切なことだと感じました。コロナの自粛生活を通して、肉体や精神が健康でも、社会とのつながりがなくなってしまったせいで喪失感や不安感が消えない状態になったことがありました。健康な状態には社会とのつながりが大切だというのはこの自粛生活を通してみんなが改めて思い直していることだと思います。また、病気を治すということももちろん大切ですが、一番大切なのは病気にならない状態をつくることであって、健康に生きられることが幸せなのだと思います。そのためには適切な医療を受けられることに加えて、社会とのつながりがあること、ここに行けば誰かに会えるという居場所がなくてはならないと思います。
- ・コロナ前に戻すのではなく、コロナで見た課題を解決していくことが、誰一人取り残さない社会の実現になる、ということがすごく心に残りました。
- ・大田さんの仕事や、組合に対する気持ちを聞き、とても心を動かされた。自分の中で将来、誰かが生きることを支えていくという考えはなかった。自分も誰かの生きる支えになれるような存在になりたいと思った。

以上